

シンポジウム「子どもの未来可能性を大切にする社会の実現をめざして」

11月2日（火）に、学術交流会館小講堂において、佐伯和子教授（保健科学研究院創成看護学分野）を座長とし、「子どもの未来可能性を大切にする社会の実現をめざして」と題して、4人のシンポジストによる講演を行いました。

「肥満化・体力低下時代を生きる子どもたちへの未来処方箋ーアジアと日本の子どもの体格とフィットネス」（保健科学研究院創成看護学分野 山内太郎准教授）においては、インドネシアでのフィールドワーク結果と日本の子どもの肥満を比較し、自然と遊ぶことの意義を処方箋の一つとして提案されました。

「子どものうつ病と発達障害」（保健科学研究院生活機能学分野 傳田健三教授）では、疫学的調査による子どものうつ病の発症率の変化、発達障害児の実態と最新の治療方法について事例を示してお話いただきました。

「文化的営みの中で行う子育てと地域の絆」（保健科学研究院創成看護学分野 本田 光助教）では、沖縄宮古島での子育てを通して、コミュニティに在る目に見えない資本である文化と子どもの豊かな成長についてお話いただきました。

「子どもの立場で考える男女共同参画社会」（農学研究院／生命科学院，女性研究者支援室室長 有賀早苗教授）においては、子どもの立場、子どもの視点から女性研究者の子育てと研究生活の共存のさせ方についてお話しされ、男女共同参画社会を推進するための一方向性を示唆されました。

閉塞感が漂う現代の日本社会では、生活習慣病予備軍といえる子ども、精神的な問題をもつ子どもなど新たな子どもを取り巻く健康障害が出現しています。一方、子育ては文化と社会システムの中で行われ、子育てを支援できる社会システムのあり方を多様な視点で捉え、子どもの未来と子育てについて、考えることができました。

終了後のアンケートでも、「子どもの未来について考える機会となりましたか？」の問いに、9割以上の方が「ややそう思う・とてもそう思う」と回答しており、本シンポジウムはテーマに沿った内容を伝えることができ、また参加者からも高い満足感が得られたと感じています。



挨拶する小林保健科学研究院長



山内太郎准教授による講演の様子



傳田健三教授による講演の様子



本田 光助教による講演の様子